

韓国人の日本語学習者の第三者敬語 —「父は米国に行きました」を一例として—

魚 秀禎

1. はじめに

韓国語は日本語と同様に敬語が発達している言語として知られており、韓国人の日本語学習者のなかには、日本語は韓国語と同様に敬語が発達しており、その用法も同じだと思い込んでいる人も少なくない。また、敬語の表現形式をきちんと学習しておけば、それぞれの場面で正しく運用できると思われがちである。

ところが、韓国語と日本語の敬語用法にはかなりの違いがみられる。たとえば、一番大きな違いとして、父のことをソトの人に話すとき、日本では父のことを高めないが、韓国では父のことを高めて表現する。韓国人の日本語学習者のなかには、語彙などの敬語の表現形式に関する知識に詳しい者も多く、日本語の能力試験での資格保持者もかなりの数に達する。しかし、そのような上級レベルの学習者においても、それぞれの場面でどのような表現を用いるべきかという敬語運用上の知識については必ずしも十分ではない。

そこで、本稿は、韓国人の日本語教育学者の敬語運用に関する考え方を明らかにする資料を提示し、それを今後の敬語教育に利用しようとするものである。

2. 先行研究

これまで、敬語に関しては数え切れないほど多くの文献が発表された。まず、韓国人の日本語学習者に見られる日本語の敬語における誤用を指摘した文献として、森田(1981)や梅田(1980)などがある。しかし、このような誤用が、一部の日本語学習者のみに見られる現象なのか、多くの日

本語学習者に共通に見られる現象なのか、どのような場面において見られる現象なのか、については明らかにされていない。

また、敬語教育の問題が指摘されている研究としては、水谷(1989)、辻村(1989)、川口(1991)などがある。これらの文献は、いずれも敬語教育の指導の際、語彙語形の指導だけに重点が置かれて、それをどの場面で使うべきかというコミュニケーション教育としての敬語教育がなされていないという問題点を指摘しているが、それを裏付けるようなデータや実証分析はこれまで見当たらない。

3. 研究概要

3.1 研究課題

- (1) <自分の父親の呼び方>についての確に認識していないことを明らかにする。
- (2) 「いらっしゃる」が「行く」の尊敬語であることは知っていても、それをどのような場面で用いるべきなのかについては必ずしも的確に認識していないことを明らかにする。その際、学習者の日本語学習歴(日本での留学経験・日本語能力試験1級所持の有無)との関係を明らかにする。

3.2 調査対象者

韓国人の日本語学習者は606人(JFL群が490人、JSL群が116人)、日本語母語話者(東京都内の大学生)は102人である。

3.3 調査方法: アンケート調査

3.4 質問項目

- (1) 「いらっしゃる」が「行く」の尊敬語であることを知っていたか否か？
- (2) 12の聞き手を想定し、それぞれの聞き手に「父は米国に行きました」と言う時、「父は」のところで「行きました」のときの「正しいと思う言い方」は何か？

4. 結果と考察

4.1 「父は」のところ

<表1> 聞き手別の「父は」の正しいと思う言い方 : JNS群 単位: %

	I			II				III		IV		
	ソト			ソト				ウチ		ウチ		
	父より年上または同年			父より年下				父より年上		父より年下		
	祖父の友達	先生	父の友達	先輩	同級生	後輩	子供	祖父	祖母	母	兄・姉	弟・妹
ちちは	91.1	91.8	95.8	64.2	33.7	38.7	14.5	42.0	42.2	14.6	6.9	7.8
ちちおやは	3.8	8.3	3.1	9.5	12.6	12.9	5.8	2.5	2.2	1.0	1.4	1.3
おやじは	0.0	0.0	0.0	11.6	17.9	18.3	4.4	3.7	5.6	5.2	11.0	11.7
おとうさんは	2.5	0.0	1.0	11.6	32.6	26.9	66.7	45.7	45.6	75.0	78.1	77.9
おとうちゃんは	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	2.2	7.3	2.5	1.1	1.0	1.4	1.3
その他	2.6	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	1.5	3.7	3.3	3.1	1.4	0.0

注) 網掛けのところは最も多く現れた呼び方の比率である。

4.1.2 韓国人の日本語学習者の場合

<表2>からわかるように、韓国人の日本語学習者は聞き手を問わず、最も多く使われるのは「ちちは」で全体の5割を占める。次は「おとうさんは」で約2-4割となっている。父の呼び方において、年代の上下関係による違いは見られない。聞き手を問わず、「ちちは」が最も多く使われるのは、動作主が私の家族か、あなたの家族かに分け、前者の場合は「ちち」と、後者の場合は「おとうさん」と呼ぶ、という日本語教育の指導によ

4.1.1 日本語母語話者の場合

<表1>からわかるように、日本人は聞き手によって、「父は」のときの言い方を変えることが正しいと考えていることがわかった。父の呼び方は、まず、ウチとソトに分け、さらに父より目上か目下かで分ける。すなわち、ウチ・ソト関係のみならず、年代の上下関係によっても父の呼び方が影響されているのである。

るものであると考えられる¹⁾。

すなわち、日本人がウチ・ソト関係のみならず、年代の上下関係によっても父の呼び方が変わるのに対し、韓国人の日本語学習者は単に話者と動作主とのウチ・ソト関係に基づいて「ちちは」と「おとうさんは」を使い分けている。ただし、その割合は5割に過ぎず、日本語学習者がウチ・ソト関係についての確に理解しているとは言えない。

<表2> 聞き手別の「父は」の正しいと思う言い方 : JFL群+ JSL群 単位: %

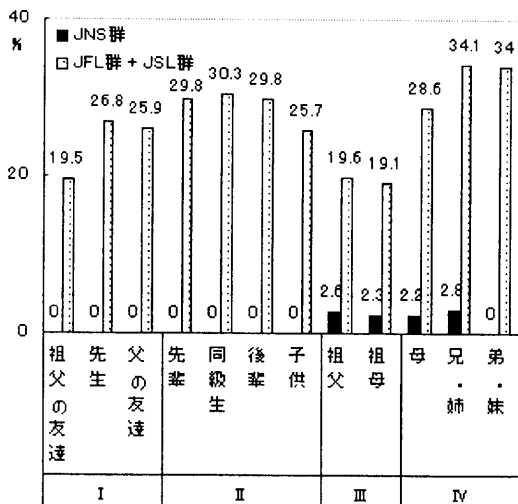
	I			II				III		IV		
	祖父の友達	先生	父の友達	先輩	同級生	後輩	子供	祖父	祖母	母	兄・姉	弟・妹
ちちは	48.6	43.2	45.0	49.7	58.9	56.3	54.4	50.7	49.5	43.4	46.9	48.3
ちちおやは	12.7	14.3	11.1	10.5	10.1	11.9	15.2	9.4	8.4	7.9	8.2	9.5
おやじは	3.3	1.5	2.1	3.3	3.9	3.0	2.1	3.0	3.1	2.2	2.3	3.2
おとうさんは	32.8	37.2	38.5	34.6	24.0	24.8	21.9	34.1	36.4	41.6	39.1	33.2
おとうちゃんは	0.8	1.5	1.3	1.5	2.4	2.6	5.1	2.3	1.8	3.9	3.0	4.9
おとうさまは	1.7	2.4	2.1	0.4	0.7	1.5	1.3	0.6	0.7	1.1	0.6	0.9

注) 網掛けのところは最も多く現れた呼び方の比率である。

4.2 「行きました」のところ

韓国人の日本語学習者に対し、「行きました」のところの言い方を調べる前に、「いらっしゃる」が「行く」の尊敬語であることを知っていたか否かを聞いた。回答者 606 人のうち、知っていたと答えた人は 560 人であり、全体の 92.4%を占めた。

ここでは、「父のことを高めるのが正しい」と答えた人だけを取り上げてみることにする。図からわかるように日本語母語話者の場合、父のことを高めるのが正しいと答えた人はほとんどいないことがわかる。これに対し、韓国人の日本語学習者の場合は 26.9%が父のことを高めるのが正しい」と答えている。その特徴をみると、まず、聞き手がウチかソトかの区別は行われていない。また、「祖父の友達」「祖父」「祖母」に対して（父より年上の聞き手）は他の聞き手より 10%ほど低いことがわかる。これは韓国語の敬語体系における「圧尊法」によるものだと考えられる²。



図「父のことを高めるのが正しい」と答えた人の割合

4.3 日本語学習歴との関係

「ソトに対して、父のことを高めるのが正しい」と答えた人の日本語学習歴を調べ、誤用と日本語学習歴の関係を明らかにする。ここで、日本語学習歴の指標としては日本語能力試験 1 級の有無と留学経験の有無を取り上げる。

(1) 留学経験の有無が同じである場合

資格を所持するグループの誤用率は資格を所持していないグループの誤用率より低い。 χ^2 検定により、1%有意水準で、「資格有無」と「誤用」との間に密接な関係があることが確認された。

(2) 資格の有無が同じである場合

留学経験があるグループの誤用率は留学経験がないグループの誤用率より若干低い。ただし、これは留学期間に大きく影響されると考えられる。ちなみに、JFL 群の留学の平均期間は 11.4 ヶ月、JSL 群の平均滞在期間は 17.2 ヶ月である。今回、「留学有無」と「誤用」との間の関係については 5%有意水準で否定された。

5. 日本語教育への提案

(1) 親族呼称は聞き手別に違う点について認識させることが重要である。すなわち、自分の父親は「ちち」という説明ではなく、「父親自身に対して」、「身内に対して」、「他人に対して」によって呼び方が違う点についても認識させる必要がある。

(2) 「第三者敬語」の場合、韓国語の敬語と大きく違うことについての十分な説明が必要である。すなわち、第三者（話題の人物）を高めるか否かは、韓国語の場合は聞き手とは無関係に話し手と第三者との関係によって決まる（圧尊法は例外）のに対し、日本語の場合は話し手と聞き手と第三者を共に考慮するという説明が必要である。日本語の場合、「ソトに対して、ウチのことを高めない」ということは必ず触れるべきである。その際、ウチ・ソトの定義の説明は不可欠である。

6. 今後の課題

(1) 今回の調査では、動作主として「父」のみを想定しており、ウチ・ソト関係を家族か家族以外かだけに限定されている。これからは様々な場面におけるウチ・ソト関係の想定が必要である。

(2) 日本での滞在期間が長い学習者のデータを収集し、滞在期間と誤用及び正用率の関係についても分析が必要である。

(3)日本語の家庭内の待遇表現（「父のことを身内にはどのようにいうのが正しいのか」など）についてより多くのJNS群の調査が必要である。

注

1. 例えば，東京外国語大学留学生日本語教育センター(1994)『初級日本語』凡人社，p.69。
2. 이은정(1995), pp.66-67。

参考文献

- 梅田博之(1980)「朝鮮語を母語とする学習者のための日本語教材作成上の問題点」『日本語教育』40, pp.35-46。
- 魚秀禎(2004)「日韓の敬語用法の比較－「普段の言い方」と「正しいと思う言い方」の相違を中心」『計量国語学』第24巻7号, pp.275-289。
- 魚秀禎(2005)「日本人の母語と韓国人の日本語学習者の日本語の比較－「正しいと思う言い方」と「普段の言い方」を中心」『社会言

語科学』第8巻1号(近刊)。

- 川口義一(1991)「敬語指導から見た日本語教育と国語教育—プロジェクトワークの可能性—」『日本語学』VOL.109月号, pp.37-41。
- 国立国語研究所(1992)『敬語教育の基本問題(下)』日本語教育指導参考書18。
- 辻村敏樹(1989)「待遇表現(特に敬語)と日本語教育」『日本語教育』69号, pp.1-10。
- 東京外国語大学 留学生日本語教育センター(1994)『初級日本語』凡人社。
- 水谷信子(1989)「待遇表現指導の方法」『日本語教育』69号, pp.24-35。
- 森田芳夫(1981)「韓国人学生の日本語学習における誤用例—動詞—」『日本語教育』43, pp.79-88。
- 국립국어연구원(1992)『표준화법해설』국립국어연구원。
- 이은정(1995)「표준화법을 적용한 고운말 바른표현」백산출판사。

おう すじょん／お茶の水女子大学大学院 国際日本学専攻
cosoojeong@hotmail.com